



中央公民館が優良公民館表彰で優秀館を受賞 ～地域住民の活発な学習活動などが高く評価されました～

邑楽町中央公民館

■ 中央公民館建設は30年越しの悲願

邑楽町中央公民館は、旧邑楽町公民館の移転・新築とホール建設を兼ねて計画されました。昭和62年に町の総合計画に位置づけられ、約30年の間に2回の建設を求める署名運動もあり、平成30年9月1日にオープンしました。9月1日、2日にはオープニングイベントを開催し、2日間で約5,500の方が来場し盛大な賑わいをみせました。

建設場所は邑楽町のほぼ中央に位置し、町民自身が表現者・発信者として新たな文化を創造し発信する場、町の知名度を高め交流人口・定住人口を創出するまちづくりの拠点と位置づけました。建設には、社会資本整備総合交付金(都市再生整備計画事業)などを活用しました。



邑楽町中央公民館(外観正面)

■ 群馬県73年の歴史の中で初の選出

優良公民館表彰とは、地域の実情に応じ、事業内容や方法に特に工夫をこらし、地域住民の学習活動などに大きく貢献している公民館を選ぶもので、各都道府県教育委員会から推薦のあった公民館を文部科学大臣が優良公民館として表彰するものです。今回、全国から推薦のあった65館を文部科学大臣が表彰。さらに審査を経て、邑楽町中央公民館が優秀館(第2位)に選出されました。優秀館選出は、群馬県73年の歴史の中で初の快挙となりました。

審査員からは「不利な立場の人こそ、学習権を公民館で保障するという構想の下、知的障がい者の自立した生活や余暇活動の充実を目指す継続的な取り組み」や「公民館の移転・新築の際、住民参加型の組織を立ち上げ、住民のニーズと地域課題を丁寧に議論してきた取り組み」などが全国の公民館の模範となるということで高い評価をいただきました。



485席を備えた邑の森ホール



会場が一つになったオープニングイベント
(500人合唱)

■ 今後の展望・取り組み

少子高齢化、地域のつながりの希薄化等、様々な課題が山積する中で、人生100年時代を見据え、一人ひとりがいかに幸せな人生を歩むのかを、公民館がこれまで培ってきた地域とのつながりを生かし、住民自身が主役となり地域力を育む「学び」を実践するための拠点となるよう、公民館が果たすべき役割は重要であると考えます。

地域住民の自主的な学習活動の支援や地域課題を解決するにはどうしたらよいのかを常に考え、地域のニーズを的確に把握する必要があります。そのためにも、日頃からアンテナを高くし、利用者や地域住民の声に耳を傾け、地域住民が、より豊かな生活を送るには、より幸せを感じる社会には何が必要か、どうしたらよいのかを問い続けています。最後に、「人づくりは、まちづくり」を基本に、地域社会で大きな役割を担う公民館が、地域に向き合って、「教育と文化のまちづくり」をさらに発展的に取り組んでいきます。

